

園評価の結果について

学校法人 北邦学園
菊水いちい認定こども園

令和6年度に実施した菊水いちい認定こども園の自己評価の結果の概要は、次の通りです。

建学の精神 『自然から学ぶ』

1 本園の教育目標

- ◎思いやりのある子
- ◎考え工夫する子
- ◎明るくたくましい子

【学年のねらい】

- 0歳児 保育教諭と触れ合う中で安心感を得て、様々なものや友達に興味をもつ
- 1歳児 保育教諭や友達と関わりながら遊ぶ中で、自分の気持ちを表現する楽しさを感じる
- 2歳児 様々なことに興味や関心をもち、自分の気持ちを表現したり、
友達と関わったりする楽しさを感じる
- 3歳児 様々な遊びや活動の中で、自分の気持ちを存分に表現したり、
友達と一緒に遊んだりすることを楽しむ
- 4歳児 いろいろな友達との遊びや活動を通して、自分の気持ちや考えを表現したり、
意欲をもって取り組んだりすることを楽しむ
- 5歳児 様々な活動に意欲的に取り組む中で、見通しをもって自分で考えて行動したり、
友達と協力して活動を進める充実感を味わったりする

自己評価	評価内容
B	年間を通して制限無くいちいの保育で大切にしてきた保育内容や環境、行事の取り組みを実施し、ねらいはおおむね達成できたと考える。

(A：成果が上がった。 B：ある程度成果が上がった。 C：もう少し努力が必要。 D：改善が必要。)

2 重点的に取り組んだ目標・計画について

(A : 成果が上がった。 B : ある程度成果が上がった。 C : もう少し努力が必要。 D : 改善が必要。)

目標/計画	自己評価
預かり/2号児保育の 活動内容と環境の見直し 自己評価：B	*保育室の共有（教育時間と預かり/2号児保育）における課題を明らかにし、預かり/2号児保育ならではの空間作りを行う。 ・使用したクラスの清掃の問題があった。担当保育教諭間で話し合い、保育室から遊戯室に移動した後の時間で必ず行うことで、その問題は解決された。 ・保育室に入る際に、教育時間が終わって降園する子どもたちと預かり/2号児保育に向かう子どもたちで、廊下が混沌とする状況があった。預かり/2号児保育を行う担当保育教諭が、保育開始時間前に待機し、降園する子の妨げにならない場所で待てるようにしたことで、落ち着いた雰囲気の中で、子どもたちの人数確認ができるようになった。 *長期休み期間のぶどう組を固定し、継続的な活動を楽しめるようにする。 ・遊戯室後方のパーテーションで仕切り、後方をぶどう組保育室にしようと考えたが、夏休みは冷房が効かないことから、年少クラスをぶどう組に固定し、遊戯室と行き来する形で、一人ひとりの子どもたちが自分で遊びを選んだり、継続して楽しめるようにしたりした。冬期も後方が外遊びに行く際の出入り場所になることから、同様となっている。 *長期休み期間の園バスを利用した園外保育を実施する。 ・夏休みは、いちいの村、屋内の施設で暑さをしのぐことも可能な円山動物園へ、冬休みは青少年科学館へ、園バスを利用した園外保育を実施した。次年度以降も、継続して行っていきたい。
玩具の見直し 自己評価：B	*各学年の玩具の状況（種類、個数、状態、）を確認し、子どもの育ちに合っているか、また、望ましい発達を促すものになっているか考える。 ・0・1・2歳児の保育室では、それぞれの育ちや興味、関心に応じた手作りの玩具を取り入れた。その中では、素材、強度、誤飲の危険について意識し取り入れることができたことは評価したい。今後も裁縫や編み物などが得意な職員の強みを生かして手作り玩具を作成していく。 ・3・4・5歳児では、ゾーンの一つ「ホッピーハウス」の環境構成について考え、丈夫な既製品の玩具を購入したり、手作りの玩具を用意したりした。その中では個数や種類を用意することで子どもたちが主体的に遊びを展開し楽しむ姿に繋がった。今後も継続して行いたい。 *玩具についての書籍を読んだり、研修に参加して学びを深める。 *展示会に出向き、様々な玩具を知る。 ・今年度は、担任が展示会に参加できるように考えていたが、時期が合わずその機会を持てなかった。玩具の業者のカatalogを見る時間を設けるなどし、子どもたちの興味や関心に合う玩具について考える機会を増やしていきたい。

絵本について学び 活かし方を見直す 自己評価：C	*季節、子どもの興味や関心、保育のねらい（願い）に応じた絵本を選び、保育室に置く。 ・季節や教育保育課程の期の移り変わり時期には、「おはなしのもり」にある絵本を入れ替えているが、クラスにより少し差が感じられた。 ・虫や植物など、子どもの興味や関心の大きい題材の絵本、図鑑が不足していると感じる。担任の要望を毎年の図書購入に取り入れてきたが、より子どもたちの興味や関心が反映されるよう、来年度以降は計画的に購入していく。 *言葉のリズムや物語や情景を豊かに表現している言葉を保育に活かす。 ・0～2歳児クラスでは、毎月1冊子どもの育ちにあった絵本を配本し、平日は園で読み聞かせをし、週末は家庭に持ち帰り過程で読み聞かせを楽しんでいる。また、普段から聴いている絵本の読み聞かせが歌になっているものをかけていると、歌詞やリズムある言葉を口ずさむことを楽しむ姿も見られている。
---	---

3 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
園内外のゾーンを活かした活動内容の見直し	・ホッピーハウスやホッピーやぐらなど、園舎内外には魅力的なゾーンが存在するため、それを活かした活動を楽しめるようにする。 ・クラスの設定保育で積極的にゾーンを活かした活動を楽しめるように計画していく。
導入後の玩具の活かし方を見直す	・今年度導入した玩具を使った遊び方を確認し、壊れたものがあれば補修したり、買い足す、新たに子どもの興味関心に応じた玩具を取り入れるなどし、継続して主体的に遊びを楽しめるようにする。 ・玩具についての書籍を読んだり、研修に参加して学びを深める。 ・展示会に出向き、様々な玩具を知る。
絵本について学び活かし方を見直す	・季節、子どもの興味や関心、保育のねらい（願い）に応じた絵本を選び、保育室に置く。 ・子どもたちが読んでみたいと感じたり、その際にすぐ手に取り読んだりできるよう、「おはなしの森」の棚の絵本の置き方や展示の仕方を考える。